

ぐるめ散歩

蕎麦・日本料理
そばどころ さむらい
蕎麦処 SAMURAI

神戸牛鍋、天ぷらと手打ち十割蕎麦を組み合わせたコース料理などをアットホームな雰囲気で開催している。

店舗は靴を脱いで上がる形式で、2つの部屋に6人掛けと4人掛けのテーブルが置いてあり、隠れ家的な雰囲気。芸能人も貸し切りで訪れるという。

メニューは神戸牛鍋と旬の素材の天ぷら、刺身を基本に、四季折々の食材に応じて変えている。また、ランチタイムはかつ丼セツ



樋渡さん

☎080-1026-3660 東野川2-21-4、営業=ランチ午前11時~午後2時、ディナー午後6時~9時(予約制)、月・水・金曜日



十割蕎麦 神戸牛鍋 天ぷら 出汁巻き卵

トや出汁巻き卵が人気。天ぷらの衣には蕎麦粉を使い、蕎麦粉は国内産のものを季節に応じて変えている。つゆは本枯れ節と荒節で濃厚なかつおだしが楽しめる。

店主の樋渡一成さんは小学生の頃から蕎麦を打つなど料理が好きで、社会人になってからも全国の蕎麦の食べ歩きをし

て研究を重ねたという。令和元年に現在の店をオープン。ただ、

開店直後にコロナ禍に遭い、日本の伝統文化の手打ち蕎麦を世界中に伝えたいという思いから、前職の経験をいかし旅行業も始めた。添乗員として全国を旅する間に、老舗ホテルや旅館で料理を習ったり、酒蔵を訪ね現在のサービスにいかしている。樋渡さんは「お客様と話をするのが好きです。ゆったりと蕎麦や料理、お酒を楽しんでいただくよう心がけています。添乗に出るときは休業することもあるのですが、できるだけ事前予約を」と話している。

おすすめMENU

もり蕎麦¥880 / 出汁巻き卵¥649 / お昼のコース=神戸牛鍋ともり蕎麦¥2,200 / 蕎麦粉の天婦羅ともり蕎麦ミニ懐石¥2,250 / お昼のお任せミニ懐石¥3,300 / かつ丼セツ¥1,500 / 夜のコース=店主お任せミニ懐石¥3,300 / 店主お任せコース¥5,500 (税込み)

スーパー 交番 松原通り 病院 SAMURAI



松原青年会盆踊り
①23日(火)・24日(水)雨天順延、予備日25日(木)午後7時~9時②狛江第一小学校③狛江音頭などの模範の踊りの後、子どもが順番にやぐらで踊る。やぐらに登る子どもに抽選券を配り、2日目に抽選でプレゼント。青年会が焼きそば、フランクフルト、ジュース、かき氷、ビールを販売④松原青年会 ☎080-3437-0933藤原 記事の見方①開催日・期間②会場③内容④主催・問い合わせ

籠屋の美酒で酷暑克服

日本文化である地酒 (日本酒と焼酎) 専門店
https://kago-ya.net

月曜定休・営業時間10:00~19:00
〒201-0016 狛江市野井町3-34-3
電話: 03-3480-8931 FAX: 03-3489-2044

籠屋(有)秋元商店

えきまえ広場で生演奏 つなげよう 音楽の架け橋

駅前ライブが6月9日(日)にえきまえ広場で催された。88回目の今回は、男性ボーカル・ギターデュオ「Liproll」が「真夏の夜の夢」「このまま君だけを奪い去りたい」などのJ-POPを披露。続いて平均年齢70代の5人組アコースティックバンド「ブルーグラス・ワンスモア」が「フォギー・マウンテン・ブレイクダウン」など往年の名曲を披露し、のべ約150人の聴衆は青空の下で思い思いに生演奏を楽しんでいた。

このライブは、多くの人に気軽に生演奏を楽しんでもらおうと、音楽の街-狛江 エコルマ企画委員会が企画・開催しているもので、今年度は同会場で9月・10月・12月・令和7年3月の日曜日または土曜日に、市内外のミュージシャンが様々なジャンルの音楽を披露する予定。



ブルーグラス・ワンスモア



多摩川水害から50年 大規模な総合水防訓練

6月16日(日)に多摩川緑地公園ブランドで狛江市総合水防訓練が行われた。

昭和49年に堤防の決壊によって民家など19棟が流出した多摩川水害から今年で50年の節目を迎えたのを機に、改めて市民に水害への関心を高め、備えてもらおうと実施した。狛江消防署、狛江市消防団、陸上自衛隊、狛江市建設業協会、狛江市防災会、狛江女性防火の会、狛江市などから約300人が参加したほか、多くの市民が大がかりな訓練を見守った。

演習は積土のう工法、連結水のう工法、マンホール噴出防止工法に加え、重機を使った大型土のう設置、市民による都市型水防工法など多彩な水防工法に取り組んだ。訓練の様子は4機のドローンが撮影し、映像を大型スクリーンで流した。

隣接した会場では消防車両や給水車などの展示、高所作業車やはしご車の体験搭乗、風圧体験に加え防災に関する展示が行われ、訪れた市民は熱心に見学していた。

燃料電池車など多彩な展示 こまエコまつりに2,900人

第52回こまエコまつりが6月1日(日)、市民ひろばと防災センター、中央公民館などで開かれ、家族連れなど約2,900人が展示やアトラクションなどを通して環境問題へ

の関心を深めていた。

市民ひろばでは、電力、都市ガスなどの会社や大学、自治体のテントが並び、クイズや紙芝居、寄せ植え体験などが行われた。

親子連れに人気を集めたのは、水素燃料電池自動車MIRAIのカットモデルの展示で、運転席に乗ったわが子の写真を撮る親も多かった。

防災センターでは間伐材で作った1万個の積み木遊び、書いた絵がスクリーン上の海中を動くおえかきパラダイスに多くの親子連れが参加していた。

花の無料配布や、市と脱炭素に関する連携協定を結んでいる長野県茅野市や住民交流友好都市の山梨県小菅村の物産展も人気で、早々と売り切れる商品もあった。また、長野県小諸市の間伐材を使ったマイ箸作りや鹿の角を使ったアクセサリー作りも参加者を集めていた。

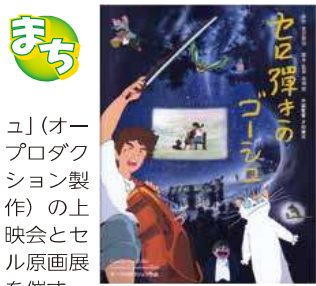
会場ではクイズ・スタンプラリーも行われ、パンフレットを手に会場を回る人も多く見られた。



間伐材の積み木で遊ぶ参加者

アニメ「セロ弾きのゴーシュ」上映会とセル原画展を開催

泉の森会館が自主企画として宮沢賢治原作、高畑勲脚本・監督の劇場版アニメ「セロ弾きのゴーシュ」



上映会は8月4日(日)午後2時(開場1時30分)からで、7月1日(日)午前10時から同館で先着70人に整理券を配布する。原画展は8月2日(金)~5日(月)の午前10時~午後5時(最終日は4時)。いずれも入場無料。

この企画は、「セロ弾きのゴーシュ」の仕上げをはじめ、「アルプスの少女ハイジ」などテレビアニメの彩画などを多数手がけた市内のアニメ製作会社スタジオロビンの元経営者で画家の奄宮東世(本名・義山正夫)さんと泉龍寺が協力して実現した。

「セロ弾きのゴーシュ」は、主に映画会社の下請けをしていたオープンプロダクションのプロデューサー村田耕一さんと作画監督の才田俊次さんが、昭和50年頃に自主企画映画を作ろうと計画した。宮澤賢治の弟の宮澤清六さんから原作の使用許可を取り、高畑さんに監督・脚本を依頼した。仕事の合間に主に2人で5年がかりで作画を続けるかたわら、仕事仲間の協力で撮影・録音などを行い、かつて2人と同僚だった奄宮さんも仕上げを担当した。57年に劇場公開され、その後、平成20年代にはDVD化され、日本をはじめ世界の各地で上映されてきた。

セル画は、オープンプロダクション代表取締役なみきたかしさん所蔵の約40点を展示。関連書籍や雑貨も販売する。

問い合わせは☎5497-5444泉の森会館。